

物語を感じる沢ハイキング

# 日光 鳴虫山 ヤキバ沢

池田

【日時】 2006年10月9日(月)

【メンバー】 L関口、池田

台風に見舞われた3連休、天気の良い関東に残って秋の沢ハイクを選択したのは大正解でした。しかも関口さんが探してきてくれたのは、ヤキソバ沢、じゃなくてヤキバ沢、素麺滝、鳴虫山、と冗談みたいな地名ばかり！珍しく、歴史探訪～旅情編、です。





## 憾満ヶ淵(含満ヶ淵)【かんまんがふち】

入渓地点に行くまでに、慈雲寺という寺を通ります。この寺は承応三年(1654年)、天海大僧正(慈眼大師)が東照宮を日光に祀った時、近くにあった僧侶の墓地の移転先として弟子の公海(晃海)が造った真言宗の寺です。確かに、古い墓石がいくつもありました。

慈雲寺の脇を大谷川が通っています。この付近は憾満ヶ淵と呼ばれ、古くから不動明王が現れる霊地とされてきました。男体山から噴出した溶岩が奇岩となって連なり、水が荒々しく渦を巻いています。その流れの音が不動明王の真言を唱える様に響くので、真言の最後の句の「カンマン」を取り、憾満ヶ淵と名付けたとされています。



## ならび地蔵(化け地蔵)【ならびじぞう】



寺の奥には、大谷川に沿って、古いお地蔵様がずらっと並んでいます。これは天海大僧正の弟子約100名が一体ずつ造ったものだそうです。ただし明治35年の洪水で、数はだいぶ減ってしまいました。

このお地蔵様は別名化け地蔵とも呼ばれていて、往きと帰りで数えると、数が合わないと言われています。ちなみに関口さんは往きが46体、帰りが44体でした。お祓いに行った方がよいでしょう。

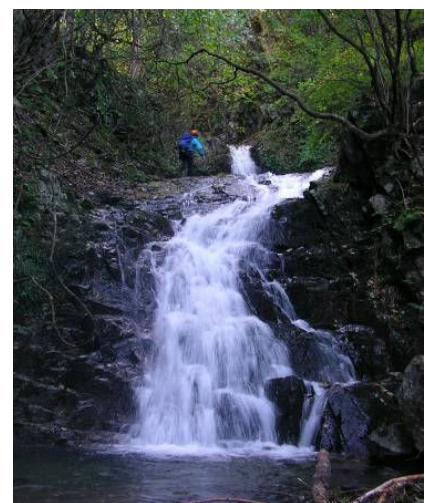
## ヤキバ沢【やきばさわ】

寺を抜け、憾満ヶ淵(大谷川)の支流、ヤキバ沢に入渓。小さっ…と言わずに、風情がある、と表現して進みます。いきなり堰堤が。堰堤には漢字で「焼場沢」とあります。裏付けは取れませんでした。やはり墓地の側だけあって、焼場なんでしょう。

## 素麺滝【そうめんたき】

今回のメインの滝にさっそく遭遇。素麺滝！夏だったら迷わず素麺を冷やして食べるころです。なぜこんな名前がついたかと言えば…平安時代後期、源義家が宝塚のあたりに満願寺という寺を建てました。ここの僧が日光のニ荒山神社を参った時、神社の使用人に食べ物を請うたところ、日ごろの不当な扱いで不満をかかえていた使用人たちはこの僧に意地悪をし、素麺を次々と食べさせ、苦しめたそうです。そこへ、満願寺の地蔵が老人に化けて現れ、素麺を食べ尽くし、この僧を救ったとのこと。「それ以来、ニ荒山神社の西には、今でもそうめん谷がある」んだそうです。

この話は落語にもなっていて、「まんが日本むかし話」でも放映されたそうなので、有名なのかもしれません。そんな素麺滝に入れるなんて…！と思っていましたが、実は女峰山の西、小真名子山を源とする荒沢にも「そうめん滝」があるようです。そっちかも…↓。

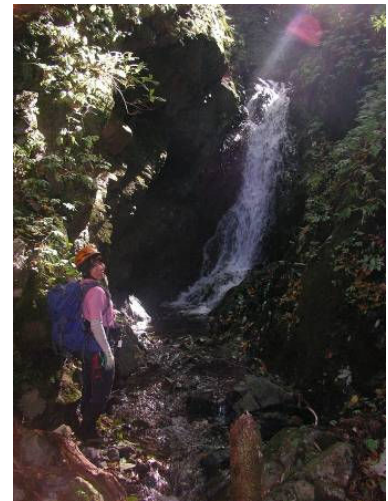


## 蛇沢【へびさわ】

素麺滝を越えると2俣に出会います。予定ルートは左ですが、ちょっと右俣ものぞきに行ってみました。なにせこの右俣は「蛇沢」、左俣は「カニ沢」と呼ばれているのです。この「蛇沢」、やっぱり由来らしきお話があります・・・先ほどの満願寺を建てた源義家が奥州（東北）に進軍したとき、鬼怒川釜ヶ淵の悪蛇のため進めなかったのを、やはり満願寺の地蔵が出てきて、蛇を退治した、というものです。ヤキバ沢は鬼怒川の支流の支流ですし、「釜ヶ淵」というのも「憾満ヶ淵」と音がそっくり。蛇がこの沢に逃げ込んだと考えたくもなるというもの。

## 餅洗滝【もちあらいたき】

さてヤキバ沢左俣、別名カニ沢（この由来は分からなかった）に戻ると、8m（と言われる）餅洗滝に出会います。昔、鳥を捕獲するために使った「鳥餅」を洗ったと言われる沢です。「鳥餅」とは、モチノキの皮をはぎ、石で砕いてネバネバにして棒に塗り、それを木の枝に挿しておいて、鳥が止まったら捕まえる、というものです。鳥版ゴキブリホイホイでしょうか（ゴキブリホイホイって今でもあるのか）？その鳥餅を洗った滝ですが、確かにヤキバ沢で最も大きく、水圧が強いという意味ではこの滝しかないでしょう。



## 鳴虫山【なきむしやま】



餅洗滝を越えると、もう沢も終盤。東の登山道に詰めようかと思いましたが、倒木がひどかったので、西の尾根にのりました。ここは藪もなく、落ち葉ラッセルをしながら簡単に尾根にたどり着きます。そして尾根にのると、道でもないのに、ほ、祠が・・・！  
どうやらここはかつては登山道だったらしく、その後も道標などがありました。

現在の登山道に出て鳴虫山山頂へ。山頂は人でにぎわっており、宴会が繰り広げられています。女

峰山と男体山がよく見えて、秋の心地よいひととき。この山の名前は、この山に雲がかかると雨が降り出す事が多いことから、だそうです。

ビールもお菓子も持たずに宴会場へ来てしまったことをちょっと悔やみつつも、登山道を使って慈雲寺へ下りました。下りたところには蕎麦屋があり、「弘法の投筆蕎麦セット」の看板が。憾満ヶ淵の巨岩に、弘法大師が筆を投げつけて「カンマン」の梵字を彫ったという言い伝えがあるからです。ここは蕎麦ではなく、素麺セットにして欲しいと思いました。

【グレード】1級 【地図】 日光南部、日光北部

【行程】 駐車場(7:30)～鳴虫山山頂(11:40/12:13)～駐車場(13:30)